

Title	ごあいさつ
Author(s)	熊谷, 信昭
Citation	癌と人. 16 P.1-P.1
Issue Date	1989-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/24055
DOI	
rights	
Note	

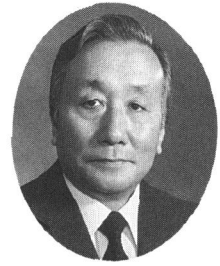
Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ご あ い さ つ

理事長 熊 谷 信 昭*



激動の昭和の時代も幕を閉じ、平成の新時代を迎えることになりました。

皆様方には、それぞれに色々な感慨をおもちのことと思いますが、新しい時代を迎えて誰もが心から願うことは、万人の健やかな健康と明るい平和でありましょう。特に、男女の別を問わず、また都道府県の別をも問わず、死因の第1位を占め、しかも増加の一途をたどり続ける癌の問題は、我々すべてに共通する最大にして緊急の課題であるといえましょう。

昭和天皇のご病因も癌であったことが明らかにされましたし、私自身のごく最近な範囲だけでも、昨年一年間に多くの親しい親戚・知人・友人が癌のために亡くなりました。すべて50歳から60歳代にかけての働きざかりの人達ばかりでした。その中には、癌の研究に50歳という短い生涯を捧げ尽くして逝った大阪大学微生物病研究所長の角永武夫博士なども含まれています。

このような状況の中で、私は昨年7月、はからずも財団法人「大阪癌研究会」の理事長を拝命しました。この財団が、これまでに癌の研究支援や様々な癌対策事業に果たしてこられた大きな役割と、ご関係各位のご努力に対し深く敬意を表しますとともに、この財団をご支援下さる大勢の役員、賛助会員の皆様方に、この機会に改めて心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

癌の猛威に対処するためには、人智のすべてを結集し、科学技術の総力をあげ、あらゆる側面からのアプローチを続けていく必要があります。同時にまた、基礎研究や臨床治療にたずさわる専門家のみならず、為政者から一般人にいたるまで、すべての現代人に、適切で、合理的な「癌に対処する賢明さ」とでもいうべきものが必要なのではないかと思います。

癌の研究や治療のために日夜を分かたぬ努力を続けておられる研究者や専門医の方々に支え、また自らの健康を守るために一般人にもとめられる基礎知識の啓蒙運動、早期発見や予防等に必要社会的対策事業等を発展させていくために、今後とも、本財団に対し、皆様方の暖かいご理解と力強いご支援・ご協力をたまわりますよう心よりお願い申し上げます。

*大阪大学総長